

# 救命救急センター・救命科

定光 大海

救急科（総合救急部）は三次救急を担っている。三次救急のホットラインを通じて救急隊や他院からの要請に 365 日、24 時間対応している。受け入れる傷病者では外傷例が最も多く、外因による重症患者の受入れを特徴とした救命救急センターとなっている。時間外に二次救急医療機関で受け入れが困難な事例への対応を目的とした大阪府コーディネート事業にも参加し、年間 200 例近くを受け入れているが、高齢者、薬物大量服用、飲酒、精神疾患で身体損傷を伴う事例などが多く、社会の根の深い問題に直面している。その他にも救急救命士を含む救急隊員の病院前医療活動の質を保證するメディカルコントロール（MC）や政策医療の一つである災害医療にも対応している。特に、災害医療では、DMAT (Disaster Medical Assistance Team) としての対応や放射線災害に対する緊急被ばく医療を主要な業務として、広域の共同研究や災害訓練にかかわってきた。平成 23 年 3 月 12 日に発生した東北地方太平洋沖地震では DMAT2 チームを現地に派遣、花巻空港と仙台医療センターで医療支援を行った。現地から帰阪した被ばく疑いの方への対応も行った。福島第一原発事故に関連する被ばく医療支援は現在も継続している。

研究テーマも必然的に三次救急の代表的な多発外傷、院外心停止、中毒、熱傷、多臓器不全と災害医療に関連している。本年度は、外因性救急病態での血中プロカルシトニン値の評価や院外心停止の CT 画像診断の意義について NHO 共同研究に参画し、NHO 指定研究である「広域災害時の NHO の役割」では、災害時要救護者への対応策について継続研究を行っている。厚生科学研究費補助金による「災害時効果的初動期医療の確保及び改善に関する研究」にも共同研究者として継続参加している。自主研究では近畿多施設共同研究で「院外心停止例の蘇生後人工呼吸器関連肺炎に関する前向きコホート研究」を企画し（主任研究）、遺伝性血管性浮腫（HAE）疫学調査の分担研究も開始した。今後は、熱傷や軟部組織損傷に対する再生医療も計画している。

臨床と研究を担うスタッフ医師が不足しているため、人材確保と診療・研究機能の維持が大きな課題である。

## 【2011 年度研究発表業績】

A-2

定光大海：改定第 4 版 1. 初期対応 A. 標準予防策「救急診療指針」：P.84-86、へるす出版、東京、2011 年 4 月

定光大海：中枢神経系疾患「薬剤師のための 救急・集中治療領域標準テキスト」：P.202-209、へるす出版、東京、2011 年 5 月

定光大海：検査「改訂第 8 版、救急救命士標準テキスト、救急救命士標準テキスト編集委員会編」P.190-195、へるす出版、東京、2012 年 2 月

定光大海：消毒薬中毒（クレゾール、逆性石鹼）。「今日の治療指針」山口徹、北原光夫、福井次矢  
総編集、114、医学書院、東京、2012年1月

西村哲郎、定光大海：凍傷「今日の救急治療指針」杉本壽、堀進悟、行岡哲男、山田至康、坂本哲  
也、第2版：P.655-658、医学書院、東京、2012年1月

#### A-3

上尾光弘：脱臼整復法「救急・集中治療」、23(3・4)：P.549-555、総合医学社、東京、2011年5  
月

石田健一郎、前野良人、上尾光弘、曾我部拓、島原由美子、若井聡智、定光大海：日本救急医学  
会雑誌：動脈圧ラインに使用したヘパリン加生食によるヘパリン起因性血小板減少症の1例「日本  
救急医学会雑誌」22(4)：P.174-180、2011年4月

高橋雪子、布施ひとみ、永田万結、木下幸保、定光大海：救命救急センターにおける早期人工呼吸  
器関連肺炎の意義とその危険要因の検討「日臨救急医会誌（JJSEM）」14(3)：P.410-414、2011年  
6月

嶋あずさ、太田裕子、定光大海：救急医療におけるMSWの役割「日臨救急医会誌（JJSEM）」14  
(3)：P.437-444、2011年6月

#### A-4

定光大海：『血栓・塞栓』の特集にあたって疫学的背景も含めて「救急医学」、35(13)：P.1745-1747、  
へるす出版、2011年12月

#### A-6

岡島祥憲、若井聡智、上尾光弘：広範囲熱傷に対する植皮手術に有効な圧迫固定法 ポリウレタン  
フォーム（ハイドロサイトプラス）の特長を活かした方法、「cacereport vol.7」、smith&nephew 社  
パンフレット 2011年6月

#### B-2

Akinori Wakai, Mitsuo Ohnishi, Tomoya Hirose, Yuji Hattori, Yoshinori Okahata, Keiichiro Shimono,  
Mitsuhiro Noborio, Daikai Sadamitsu .Early intermittent enteral feeding without par- enteral nutrition was  
successful in brain injury patients. Ninth International Brain Injury Association World Congress, Edinburgh,  
Scotland, March.,2012.

#### B-3

定光大海、上尾光弘、服部雄司：薬物中毒検出用キット トライエージ DOA からみた違法性薬物  
の使用実態。第33回日本中毒学会総会、岐阜、2011年7月

定光大海、嶋あずさ、太田裕子、服部雄司、岩井康典、若井聡智、上尾光弘：委員会企画 救急医療における多職種連携。第 14 回日本臨床救急医学会、札幌、2011 年 6 月

定光大海：救急・集中治療における薬剤師の役割と多職種連携－医師の立場から－  
第 50 回日本病院薬剤師会、高松、2011 年 11 月

坂本 道治、溝端 康光、原田 輝一：熱傷治療における救急と形成のコラボレーションの追求。  
第 37 回日本熱傷学会総会・学術集会、東京、2011 年 6 月

#### B-4

七戸康夫、谷川攻一、井口正孝、坂本哲也、定光大海、永田高志：救急医療に携わる医師の労務環境を考える特別委員会報告～救急医の職場環境への提言～。第 39 回日本救急医学会総会、東京、平成 23 年 10 月

若井 聡智、定光大海、松本洋美、服部雄司、岩井康典：当院における多職種職員に対する災害医療教育の検討。第 14 回日本臨床救急医学会総会・学術集会、札幌、平成 23 年 6 月

島原由美子、立野里織、曾我部拓：気管支喘息と診断されていた喉頭癌による急性上気道狭窄の 1 例。第 31 回日本臨床麻酔学会、沖縄、2011 年 11 月

島原由美子、西村哲郎、曾我部拓、立野里織、定光大海：救命救急センターにおけるせん妄発現に影響を及ぼす因子の検討。第 39 回日本集中治療医学会学術集会、千葉、2012 年 2 月

曾我部 拓、立野 里織、島原 由美子：頭部外傷後の低ナトリウム血症についての検討。日本麻酔科学会 第 58 回学術集会、神戸、2011 年 5 月

曾我部 拓、立野 里織、島原 由美子：Glide Scope®の救急領域における有用性の検討。日本臨床麻酔学会 第 31 回大会、沖縄、2011 年 11 月

坂本道治・原田輝一：成人広範囲熱傷の受傷早期に発症した TSS の 1 例。第 54 回日本形成外科学会総会・学術集会、徳島、2011 年 4 月

下野圭一郎、岡嶋祥憲、曾我部拓、立野里織、坂本道治、島原由美子、若井聡智、西村哲郎、前野良人、上尾光弘、定光大海：PCPS 導入例の神経学的予後の検討  
第 24 回脳死脳蘇生学会、奈良、2011 年 6 月

岡嶋祥憲、西村哲郎、下野圭一郎、曾我部拓、立野里織、島原由美子、若井聡智、上尾光弘、定光大海：頭部外傷後に内頸動脈閉塞を来した 3 例。第 39 回日本救急医学会総会、東京、平成 23 年 10 月

B-5

定光大海、若井聡智、西村哲郎、島原由美子、立野里織、曾我部拓、坂本道治、下野圭一郎、岡皇祥憲、前野良人、上尾光弘：福島第一原発事故に関連する医療支援-J ヴィレッジでの医療支援。第104回近畿救急医学研究会、大阪、2011年7月

B-6

福田良子、服部雄司、関本裕美、曾我部拓、若井聡智、山内一恭、本田芳久、上尾光弘 定光大海、小森勝也：急性薬物中毒患者における薬剤師の役割。第32回日本中毒学会西日本地方会、大阪、平成24年2月